

# NVDA日本語版 WEBブラウザ操作リファレンス

NVDA日本語版はオープンソースの無料スクリーンリーダーです。(最新版のNVDA日本語版は、<http://j.nvda.jp/>から入手が可能です。)

このリファレンスでは、WEBコンテンツなどを閲覧する時に知っておくといふNVDA日本語版のキーボード操作をまとめています。

## ■NVDAキーについて

NVDAを制御するキーとして“NVDAキー”と呼ばれるものがあります。

NVDAキーとその他のキーの組み合わせでNVDAの色々な操作をします。(例：NVDAキーを押したままTキーを押すことによってウィンドウタイトルの読み上げを行います。)

通常はInsertキーを“NVDAキー”として使用していますが、無変換キーを“NVDAキー”にすることも可能です。(設定は後述します。)

キーコマンドの説明やキーボードショートカット一覧でNVDAキーを[NVDA]と表記することが多くあります。

## ※注意

以後の説明ではプラス記号(+)を使っていますので、スクリーンリーダーの設定で記号読み上げを無効(オフ)にされている方は、有効(オン)に切り替えたほうが内容を理解しやすいのではないかと思います。

使用するキーと一緒に記述するプラス記号は『押したままで』ということを意味しております。

## ■NVDAの起動と終了

(1) NVDAの起動について説明します。

デフォルトではCtrlキー+Altキー+Nキーを押すとNVDAが起動し、ピロロローンという軽快な音と共に「ようこそNVDAへ」というダイアログボックスが開きます。

そこでEnterキーを押すとダイアログボックスが閉じます。

尚、CtrlキーとAltキーとNキーの組み合わせは、他のスクリーンリーダーのキーボードショートカットとバッティングしている場合があり、NVDAを起動する為のキーボードショートカットをべつのキーの組み合わせに変更することができます。

(2) NVDAの終了について説明します。

NVDAキー+Qキーを押すと「NVDAの終了」といったメッセージボックスが開きます。

本当にNVDAを終了しますか?と尋ねてきますので[はい]ボタンを押します。

## ■基本的な設定

(1) NVDAのメニューの起動について

NVDAキー+Nキーを押すと“NVDAメニュー”が開きます。

その後、下矢印キー又は上矢印キーでメニュー項目を辿り、目的の項目を選んでEnterキーを押すことで、サブメニューへの移動、各種設定、ツールの起動、ヘルプなどを利用することができます。

(2) NVDAキーをべつのキーに変える方法について

キー配列の関係でInsertキーは押しにくい…という方は、NVDAキーとして使うキーをべつのキーに変更することができます。

操作の手順は

1. NVDAキー+Nキーを押してNVDAメニューを出す。
2. 下矢印キーで「設定」を選び、Enterキーを押す。  
設定メニューのサブメニューに入ります。
3. 下矢印キーで「キーボード設定」を選んで、Enterキーを押す。  
キーボード設定のダイアログボックスが開きます。
4. Tabキーで「拡張InsertキーをNVDAキーとして使用する」の項目まで移動する。
5. スペースキーを押して、チェックを外します。
6. Tabキーで[OK]ボタンまで移動して、Enterキーを押します。

注意点として、CapsLockキーは“NVDAキー”として利用することができないことを覚えておきましょう。

設定画面を見るとCapsLockキーもNVDAキーに設定できそうですが、実際のところ、日本語キー

ボードでCapsLockキーを“NVDAキー”として機能させることがシステム上できないことになっています。

(3) 音声・音量・音程、速さの設定について

現在の音声や音程では聞きづらい、音量が大きかったり小さかったりする、読み上げのスピードが速かったり遅かったりするなどの場合には、自分が聞きやすくなるようこれを調節することができます。

操作の手順は

1. C t r l キー+N V D A キー+左矢印キー を押して、変更したいアイテム（音声、音量、高さ、速さなど）を選びます。
2. C t r l キー+N V D A キー+下矢印キー又は上矢印キー を押して、選択したアイテムの値を設定します。

■WEBコンテンツ閲覧時に利用するキーコマンド

(1) NVDAの読み上げを停止するには

C t r l キー 1 回押します。

読み上げが停止します。

(2) 現在位置とその近辺の読み上げについて

N V D A キー+下矢印キー を押す。

現在位置から先を読み上げます。

N V D A キー+上矢印キー を押す。

現在の行の文字を読み上げます。

下矢印キー及び上矢印キー を押す。

次の行／前の行を読み上げます。

右矢印キー又は左矢印キー を押す。

現在位置の隣の文字を1つずつ読み上げます。

(3) ウィンドウタイトルの読み上げについて

N V D A キー+T キー を押す。

操作中のWEBコンテンツのタイトル（ブラウザのタイトルバーに表示）を読み上げます。

(4) フォーカスの読み上げについて

T a b キーを押す。

操作中のWEBコンテンツに含まれているリンクやフォーム部品にフォーカスを当てます。

通常は上から順番にフォーカスが当たりますが、WEBコンテンツ制作者がタブ移動順を指定している場合はそれに従ってフォーカスが当たります。

S h i f t キー+T a b キー を押すと、リンクやフォーム部品にフォーカスを当てるときの順序を逆転することができます。

リンクやフォーム部品でE n t e r キーを押すとそれを実行します。（クリック相当のアクションです。）

N V D A キー+T a b キー を押す。

リンクやフォーム部品にフォーカスが当たっているときに、その部分の文字列や部品名、その状態など読み上げます。

(5) 見出し関連の読み上げについて

H キー を押す。

見出しジャンプします。

S h i f t キー+H キー を押すと、ジャンプする方向が逆になります。

フルキーの1～6 を押す。

特定のレベルの見出しにジャンプします。

例えば、レベル2の見出しにジャンプするには〔2〕のキーを押します。

S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。

(6) 開いているページの要素を一覧する方法について

見出しや段落、リンクなどのことを専門用語で“要素”といいます。

要素のうち“リンク”や“見出し”を一覧する方法を記します。

N V D A キー + F 7 キー を押すと「要素リスト」というダイアログボックスが開きます。  
初回は「リンク」の一覧が、次からは前回選んだ要素に含まれているものが一覧として出てきます。  
下矢印キー又は上矢印キーを使ってツリービューの中から目的の項目を選択し、E n t e r キーを押すと、  
見出しであればその部分にジャンプしたりリンクであればそのリンク先のページにジャンプしたりといった動きをします。  
要素の種別「リンク」「見出し」を選ぶときは、S h i f t キー + T a b キーで種別のラジオボタンに移り、  
左矢印キー又は右矢印キーで任意のものを選びます。

(7) フォーム関連の移動と読み上げについて

F キー を押す。  
次のフォームの部品（テキストフィールド、チェックボックス、ラジオボタン、コンボボックスなど）にジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。  
E キー を押す。  
次のエディットボックス類にジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。

※注意

エディットボックスに文字を入力する場合には、ブラウズモードからフォーカスモードに切り替える必要があります。  
ブラウズモードとフォーカスモードについては後述します。

B キー を押す。  
次のボタン類にジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。  
C キー を押す。  
次のコンボボックス類にジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。  
R キー を押す。  
次のラジオボタンにジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。  
X キー を押す。  
次のチェックボックスにジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。

(8) リスト（箇条書き）関連の読み上げについて

L キー を押す。  
次のリスト（箇条書き・順序型リスト・定義型リスト）にジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。  
I キー を押す。  
リスト内にある、個別のリスト項目にジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。

(9) リンク関連の読み上げについて

K キー を押す。  
次のリンクまでジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。  
U キー を押す。  
未訪問リンク（まだアクセスしていないリンク）にジャンプします。  
S h i f t キーと併用することでジャンプする方向が逆になります。  
V キー を押す。  
訪問済みリンク（一度はアクセスしたことのあるリンク）にジャンプします。

S h i f tキーと併用することでジャンプする方向が逆になります。

(a) そのほかの読み上げや操作について

T キー を押す。

次のテーブル（表）の部分にジャンプします。

ジャンプ後に下矢印キーを押すと、表の中のセルに移動します。

表の中で C t r lキー+A l tキー+矢印キー（上・下・左・右のキー） を押すと、読み上げるセルを任意で移動することができます。

G キー を押す。

画像にジャンプします。

画像の代替テキスト（a l t属性の記述）を読み上げます。

S h i f tキーと併用することでジャンプする方向が逆になります。

Q キー を押す。

引用部分にジャンプします。

S h i f tキーと併用することでジャンプする方向が逆になります。

WEBコンテンツを作るにあたって他の文献から何か文章を引用するときには、一般的にその部分で“引用を示すタグ”というものが使用されますが、実はそのタグが、左右のインデントを取るなどの目的で、不正に使われていることも多くあります。

従って、Qキーを押してジャンプしたからといって、ジャンプ先が必ずしも引用部分ではない、ということに留意しておきましょう！

O キー を押す。

埋め込みオブジェクトにジャンプします。

ジャンプ後に、E n t e rキーを押すと、そのオブジェクトに入ります。

又 C t r lキー+N V D Aキー+スペースキー を押すと、オブジェクトから抜け出して、埋め込みオブジェクトに入る前の状態に戻ります。

C t r lキー+H o m eキー。

閲覧中のページの先頭にジャンプします。

C t r lキー+ E n dキー。

閲覧中のページの末尾にジャンプします。

## ■ブラウズモードとフォーカスモード

N V D Aには“ブラウズモード”と“フォーカスモード”の2つのモードがあります。

ウェブサイトを閲覧する場合、通常は自動的にブラウズモードになることから、モードの違いについて意識する必要は特にありません。

但し、注意が必要となるのがフォームのエディットボックスにフォーカスが当たっているときです。

例えば「りか」と入力しようとしてRキーを押すと、文字が入力されるのではなく、次のラジオボタンへジャンプしてしまふことがあります。実はこれが“ブラウズモード”による挙動です。

一方の“フォーカスモード”であれば、エディットボックスにフォーカスが当たっている場合であってもフォーカスはよそへ行かずに、そのまま文字が入力されます。

このような仕様の為、エディットボックスを操作するときには手動でフォーカスモードに切り替えなくてはならないことなどよくあります。

具体的に事例を示すと、下矢印キーや上矢印キー、FキーやEキーを利用してエディットボックスにフォーカスを移した場合は“ブラウズモード”のままの状態になりますので、フォーカスモードへの切り替えの操作が必要です。

逆に、フォーカスを移すときにT a bだけキーを利用した場合には自動的に“フォーカスモード”に切り替わることから、切り替え操作は不要です。

ブラウズモードとフォーカスモードとの切り替えは、N V D Aキー+スペースキーを押すことによって行います。N V D Aキー+スペースキーを押して、もしも「カシャッ」という音がしたらフォーカスモードに、もしも「プッ」という音がしたらブラウズモードに切り替わったということを表しています。